

発行/モザイク会議 議長 情野良夫 tel:042-3629-4162

モザイク会議事務局：〒185-0012 東京都国分寺市本町 4-12-4 司アートシティ 104

モザイク会議ホームページ：http://www.maa-jp.com/ Email:maafj@maa-jp.com

編集/作成：モザイク会議運営委員会

モザイク展 2015

は 9 月 27 日に閉幕。

来場者数約 800 人でした。

去年今年と連続開催しましたが、

隔年開催に戻すことにしました。

次回は 2017 年です。

モザイク展 2015
あざみ野会場風景



モザイク展カタログ制作中

名古屋モザイク工業株式会社が現在展覧会のカタログを制作中です。

12月初旬にはみんなの手元に届く予定です。お楽しみに。

モザイク +a/モザイクアブロード

は会員有志による小品展と海外招待作品の展示でした。

10月1日から6日まで多治見市、たじみ創造館内の「ギャラリーヴォイス」

で開催されました。来場者数 300 人。

多治見事務所展

小品を多治見市内の会社やお店に飾ってもらう企画。

10月7日から31日まで開催されました。

関ヶ原マーブルクラフト「モザイクアブロード」

こちらは岐阜県関ヶ原町にある石材加工の会社のショールームでの展示です。

海外招待作品を多治見で展示したあと持っていきました。12月末まで開催されます。

P4にモザイク展一絵本一の告知があります。

古くて新しいモザイクの可能性

私はモザイクについての知識は皆無と断言しているが、モザイクへの関心は人並み以上に抱いている。その最大の関心は、モザイクがもともと建築と一体化していたという点にある。ラスコーやアルタミラの洞窟壁画を思い出すまでもなく、絵画はその起源から土地や建物の表面に描かれ、本来は動かせないものだった。これを私は勝手に「不動産美術」と呼んでいる。不動産美術はルネサンス期に油絵が普及して動産化するまで、長きにわたって絵画の主流を占めていた。持ち運びできるタブローなどつい最近の発明にすぎないのだ。

モザイクへの関心のもうひとつは、たくさんの画素を並べてひとつの大きなイメージをつくりあげる点で、19世紀にスーラが開発した点描画に近いこと。さらにいえば、現代のデジタル絵画にも通底しているのだ。つまりモザイクはきわめて古い歴史をもちながら、最先端の技術にも通じるところがあるのだ。

「モザイク展」ではもちろんタブローとしての作品が展示されるが、そこにかつて不動産美術だった記憶をとどめているか、さもなければ現代のデジタル表現に通じているかが、私の審査のポイントとなった。それはモザイクだからこそ可能な、モザイクならではの表現を探ることもである。いいかえれば、油絵で描ける絵をモザイクでつくるのではなく、モザイクでしか描けない絵をモザイクでつくること。現代においてアナクロニズムとも思えるモザイク画をやる意義はそこにあると思う。

そんな観点で選ばせてもらったのが、大賞の岩田英雅の《タイトルの街 遺跡Ⅰ 遺跡Ⅱ》。個々の石がタイトルのごとく廃墟や建築の欠片を連想させると同時に、画面自体が発掘された古代のモザイク画を想起させる点で、不動産美術のイメージをとどめているように感じられた。同様に不動産美術の記憶を喚起させてくれるものに、三席の妙川幸子、奨励賞の若月弓枝、佳作の宮内淳吉らの作品がある。

一方、二席の山本真平の《貫く》は、デジタル写真のように正確にガラス片を並べ、文字を浮き上がらせ、スタンドグラスとして裏から光を当てることで、デジタル表現に通じている。モデルが高倉健という意外性も面白い。ちなみに佳作の福原与恵は、不動産美術とデジタル表現のふたつを少しずつ兼ね備えているように思える。また奨励賞の櫻井真智子はただひとり立体を出していたので、その勇氣に敬意を表したい。

モザイクにはまだまだ、たとえばポルノのボカシ効果のように、画素を大きくすることによって逆に隠すという見せ方（隠し方）もあれば、しばしば小学校に作品が残されているように、協同作業（コラボレーション）に最適の表現手段という側面もある。可能性は意外と大きいのではないかな。



多治見、「モザイク+α、モザイクアブロード」報告

記・喜井豊治

10月1日(木)から6日(火)まで多治見ギャラリーヴォイスで「第2回モザイク+α」展と「モザイクアブロード」を開催しました。

「第2回モザイク+α」は2013年に続く会員有志による展覧会、「モザイクアブロード」はあざみ野で展示した海外招待作品の展示です。名古屋モザイク工業株式会社の協賛です。陶磁器やタイルなどセラミックの街である多治見でこのような展覧会を催すことで、両者のモザイクという言葉についての違いについて考え、お互いにそれまでになかったものを得られればいい、という意味が展覧会の+αという名称に含まれています。

今回の展覧会では6日間の会期中に300人近い人が来場しました。事前にポスターを作り、新聞社に働きかけた結果です。それらの前宣伝は、名古屋モザイクの方たちや多治見在住の会員曾根君が行ってくれました。

会場係として多治見入りしてくれた会員は10名でした。おおいに助かりました。



多治見創造館

この中にギャラリーヴォイスがあります。



ギャラリーヴォイス会場風景

この展覧会の終了後、「事務所展」を開催しました。10月31日までです。

モザイク+α展に来場してくれた人に気に入った小品を選んでもらって会社に飾ってもらいました。

参加会社は久松製陶、加藤大典商店、セラメッセ、ラ・メール・プランシュの4社でした。

ご協力に感謝しています。

来年度小品展の企画

モザイク展—絵本—（仮称）

2016年6月20日（月）～25日（土）

会場・オリエギャラリー 東京都港区北青山

テーマ・絵本

出品料・15000円くらい

募集要項は次号で発表します。

展覧会報告



会員の田村薫一さんが東京で個展、岐阜でグループ展に参加しました。
日本画の展示です。

長久手アートフェスティバル 10月3日～25日日本画大パネル展示
東京、十一月画廊 10月12日～24日日本画個展

情野良夫君の電話番号が変わりました。名簿の変更をお願いします。

新しい番号は080-12607972です。